

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、基本理念の大切さを学んでいる。	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、基本理念の大切さを学んでいる。	法人理念を掲示し、職員会議や申し送り時に時間を設け確認している。他にグループホーム独自の目指すものとして‘笑’の一字を決め実践を通して現実化できるよう努めている。職員は利用者一人ひとりが、日々の中に笑う場面があり、暮らしの中で笑顔を引き出せるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は日常的ではないが学生の慰問などを行っている。また、近所にある中学校のグラウンド開放日には、散歩に行き、地域住民とコミュニケーションを行う。	地域との交流は日常的ではないが学生の慰問などを行っている。また、近所にある中学校のグラウンド開放日には、散歩に行き、地域住民とコミュニケーションを行う。	自治会に加入している。地域の防災訓練や近くの中学校の校庭開放日のバタゴルフなどの機会を活用し地域の人と交流している。高校生、小学生、幼稚園児の来訪は利用者のこの上ない楽しみとなっており、他のボランティアの来訪もあり音楽、踊りなどを楽しんでいる。近隣との自然な交流も出来つつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の衣料品店やスーパーに買物に行き理解を呼びかけている。また、散歩中、近隣の住民の庭に成っている花や果物など頂くこともある。	近所の衣料品店やスーパーに買物に行き理解を呼びかけている。また、散歩中、近隣の住民の庭に成っている花や果物など頂くこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、ホームの状況報告を行っている。	2か月毎に開催し、ホームの状況報告を行っている。	年間6回の開催で事前に議題を決めてある。時にはスライドを使い現状を知ってもらうなどの工夫で活発な会議になっている。民生委員からの提案で中学校の校庭を開放してもらい地域住民と交流したり、利用者の貼り絵などを他事業所と合同で公共施設に展示する機会に繋がるなど会議を活かし取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に地域包括職員や民生委員が窓口となり、情報交換を行っている。	運営推進会議の際に地域包括職員や民生委員が窓口となり、情報交換を行っている。	市介護保険課には、運営推進会議の議事録を届けたり、介護認定申請などの折にはできる限り顔を合わせ、連携体制の構築に努めている。また、生活福祉課とも連携は密にとっており、事業所の現状や問題を知ってもらうよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	身体拘束防止委員会を立ち上げ、日頃から職員の意識を高めている。特にスピーチロックについては研修会を持ち「スピーチロック言い換え事例」や言葉の抑揚、方言なども含め、より具体的に学んでいる。出て行くとする利用者に対しても止めるのではなく本人の気持ちを汲み取った対応を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、副施設長、介護主任が常に現場に目を光らせ指導研修を行っている。	管理者、副施設長、介護主任が常に現場に目を光らせ指導研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修など活用し、権利擁護に関することを現場に周知している。	外部研修など活用し、権利擁護に関することを現場に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	面会時や月1回の連絡の際や運営推進委員会で家族の要望を聞いている。外出を望む家族の要望を受けレクレーションや外出の機会を増やしたり、「オムツの使用量を減らして欲しい」の要望を受け、根気よくトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が可能になるなど意見・要望は直ぐに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	随時ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	職員の要望は、随時聞いている。勤務形態や休暇の希望などではできる限り受け入れている。ケアでの提案や利用者の衣類の買い足しなどの職員の気づきにはその都度対応している。年1回、管理者でもある理事長あてに、職員の意見・要望を書面で出してもらい個々の意見を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回理事長に直接意見交換できる場を実施している。 勤務態度や資格に応じての正規職員への登用制度を行っている	年1回理事長に直接意見交換できる場を実施している。 勤務態度や資格に応じての正規職員への登用制度を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させている	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の学習会へ参加している。	地域包括支援センター主催の学習会へ参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく家族の関係が薄くならないように最低でも月に一度は面会を依頼し実施している	なるべく家族の関係が薄くならないように最低でも月に一度は面会を依頼し実施している		

自己評価および外部評価結果		事業所名 グループホームわかば				
自己	外部	自己評価(実践状況)		外部評価		
		項目	ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もいる のでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆して いる	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もいる のでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆して いる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会は自由に行っていたいっている。	基本的に面会は自由に行っていたいっている。	入居時のアセスメントで、これまでの暮らしや関わりのある 人間関係の把握に努めている。馴染みの理容店、喫 茶店への送迎支援や自宅付近へ出かけた時、自宅の庭 の草むしりなど本人の希望に沿って支援している。家族 には月1度、担当職員より手紙を出し利用者の様子を伝 えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	毎日利用者様同士が関わられるようにラジオ体操や レクリエーション等で交流を図っている	毎日利用者様同士が関わられるようにラジオ体操や レクリエーション等で交流を図っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いている。 ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難 な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取して いる	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いている。 ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難 な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取して いる	担当職員が決めてあり、時間をかけて本人と会話を心掛 け、その会話や利用者同士の会話の中から出た言葉を 積み重ね思いを把握している。その情報は基本情報に 書き加え介護計画に反映したり具体的な支援に繋げて いる。意思を表せない利用者は家族からの情報、本人 の表情、態度から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・ 嗜好を聞いてサービスに活かしている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・ 嗜好を聞いてサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っ ている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作 の中から現状をみて行く様に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っ ている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作 の中から現状をみて行く様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を聞き、モニタリング・カン ファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	ご本人やご家族の要望を聞き、モニタリング・カン ファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	ケアマネージャーが入居時に本人・家族からの情報をア セスメントし介護計画を作成し、その後、モニタリングをし ている。その際本人家族の意見や、日々の個人ファイル の記録、カンファレンスでの職員意見も反映している。6 か月毎の見直しの基本であるが、状況変化があればそ の都度柔軟に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し 情報の共有を行い見直しに役立っている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し 情報の共有を行い見直しに役立っている		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診の導入。	○本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診の導入。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や医院に協力得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている	近所の商店や医院に協力得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診日にご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	定期受診日にご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	本人・家族の希望通りの医療機関で診療を受けている。これまでのかかりつけ医での受診は、家族が対応しバイタルなど必要な情報を事業所看護師が書面で渡し、受診後の返答も受けている。他に月2回の往診医による診療を受けている利用者もいる。歯科へは隣接の歯科医院へ職員が受診支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を2名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。	常勤の看護師を2名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者、副施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している	管理者、副施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者、副施設長が中心となり、看取りに向けた体制づくり(家族の意向、主治医の意見、現場職員への方針の統一)を整えている。	管理者、副施設長が中心となり、看取りに向けた体制づくり(家族の意向、主治医の意見、現場職員への方針の統一)を整えている。	入居時に、本人・家族に看取りの指針を説明し同意書を作成している。運営推進会議の議題にも挙げ事業所の対応方針を理解してもらおう努力をしている。状況の変化の都度、家族・職員・医療関係者との話し合いを繰り返し、方針の共有化を図っている。看取り支援の経験があり、マニュアル、医療連携体制も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。また、火災や災害時は地域住民に協力をして頂いている。(地域住民、地域包括職員の参加)また、年1回自治会の防災訓練に職員が参加している。	年に2回防災訓練を実施している。また、火災や災害時は地域住民に協力をして頂いている。(地域住民、地域包括職員の参加)また、年1回自治会の防災訓練に職員が参加している。	年2回の防災訓練は地域住民、包括支援センター職員の協力を得ている。防災関係会社の協力もあり、避難経路の確認、避難方法、水や消火器の使用方法などの指導を受け、訓練終了後には講評してもらっている。火災、地震に加え風水害への対応も必要としながら、火災、地震を想定した訓練となっている。災害用備蓄品は用意されている。	火災、地震、風水害と様々な災害を想定し、昼夜を問わず全利用者・職員が安全に避難できるための適切な対応を、現場で徹底して体得するために繰り返し訓練することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会や指導は実施している。もし職員がプライバシーを損ねる言葉かけがみられた時には、厳しく指導対応処分している。	学習会や指導は実施している。もし職員がプライバシーを損ねる言葉かけがみられた時には、厳しく指導対応処分している。	研修会を通じ、個人情報、権利擁護、プライバシー確保などを学んでいる。入浴支援、排泄支援、居室への出入りなど、特に留意している。言葉かけについても利用者一人ひとりの尊厳を守るよう日頃から、心掛けている。個人情報に関する書類は事務所に管理している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態に応じて対応している	状態に応じて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容や女性化粧や整髪(三つ編みなど)を行って	希望により美容や女性化粧や整髪(三つ編みなど)を行って		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	業者から調理済みのおかずが宅配され、湯せんで温め提供している。ご飯、味噌汁は事業所内で調理している。利用者はそれぞれの力に合わせ下膳、盛り付けなどできることを行っている。月1回事業所内で希望する献立や行事食を手作りしたり外食を楽しむ機会を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の主治医の指示の基に提供している	各利用者様の主治医の指示の基に提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ取り組んでいる。主治医の指示のもと看護師が洗腸対応も行っている。	排泄記録をつけ取り組んでいる。主治医の指示のもと看護師が洗腸対応も行っている。	排泄パターンを把握し、パターンに応じた個別の排泄支援を行っている。トイレでの排泄ができるようさり気ない誘導を心掛け、本人の生活リズムや行動、サインを全職員が把握し排便も含め失敗することのないよう取り組んでいる。オムツやパットの使用についても常に見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を行ったり、水分量の調整、便秘薬の調整などを行っている	運動を行ったり、水分量の調整、便秘薬の調整などを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。また、身体状況など検討し機械浴も使用する。	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。また、身体状況など検討し機械浴も使用する。	週2~3回、午前中に入浴しているが、利用者の希望があれば午後の時間帯でも入浴は可能である。身体的にグループホームの浴槽では入浴が難しい場合は、安全に入浴できるよう隣接のデイサービスの入浴施設を利用している。入浴介助は利用者の不安感や羞恥心に配慮した支援を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームわかば**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望やペースにて一人ずつ休息していただいている。	利用者様の要望やペースにて一人ずつ休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している	看護師が中心となり、主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や買い物。季節ごとに外出を図っている	近所への散歩や買い物。季節ごとに外出を図っている	日常的に散歩や外気浴の時間を設けており、近隣の大型衣料店は買い物の目的だけでなく、散歩を兼ねた楽しみの時間となっている。季節が良い時は、事業所内の庭や畑での作業を毎日のように楽しむ利用者もいる。家族の要望もあり、季節を感じる外出を増やし、初詣、桜、桃、ハーブ園、紫陽花、紅葉狩りなどと、厳冬期以外はできる限り外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が介助し、ご家族・友人への電話を支援してる	職員が介助し、ご家族・友人への電話を支援してる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が介助し、壁に季節感があじわえる様に支援してる	職員が介助し、壁に季節感があじわえる様に支援してる	広々としたフロアに、リビングとしての空間がありテレビ、ソファが用意されている。食堂のテーブルもゆとりを持って配置されている。温度、光なども快適にコントロールされており、落ち着いた雰囲気で作られている。壁には利用者の習字や手芸作品のほかに、掲示板係の職員を中心に月に毎に掲示物を利用者・職員とで飾り、季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを設置している。利用者様の希望や性格、性別などを判断し、席を決めている。	フロアにソファを設置している。利用者様の希望や性格、性別などを判断し、席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物を持ち込んでいただいている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物を持ち込んでいただいている	クーラー、ベッド、洗面台が備えてある。居室内は畳敷き部分があり、利用者によっては布団を使用したり、コタツを置いている。畳、内障子、照明など利用者には温もりと懐かしさを感じられる雰囲気である。室内は利用者一人ひとりの好みに沿った居心地よい部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や廊下に手すりを設置。キッチンにはIH対応。	各居室や廊下に手すりを設置。キッチンはIH対応。		